

総務省ICTメディアリテラシー教材

伸ばそう ICTメディアリテラシー

ーつながる！わかる！伝える！これがネットだー

家庭学習用ガイドブック



はじめに

我が国においては、世界でもトップレベルの最高速・低価格の情報通信ネットワークが整備されるに至りました。このネットワークを、いつでも、どこでも、何でも、誰でも活用できる社会がユビキタスネット社会です。ユビキタスネット社会の到来により、私たちの生活はより便利になり、ライフスタイルも大きく変化すると期待されます。ユビキタスネット社会を生きていくために必要なのは、多様な ICT メディアを的確に使いこなす能力、リテラシー（ICT メディアリテラシー）です。

インターネットや携帯電話等の ICT メディアの利用は、近年急速に進展しており、子どもが携帯電話を持つ割合も高まっています。子どもの生活における ICT メディアの位置づけが急速に大きくなり、子どもが多様な情報に直接接する機会が増大しています。このことから、子どもが自律的に、的確に情報を読み解き、判断し、発信する能力を育成することが急務になっています。

こうした状況を踏まえ、今後の ICT メディアの健全な利用の促進を図り、子どもが安全に安心してインターネットや携帯電話を利用できるようにするため、ICT メディアの危険性のみならず、利便性や創造性についても子どもが同時に理解することができるように、総合的な ICT メディアリテラシーを育成できるプログラムを開発しました。

このプログラムの特徴は、次のとおりです。

- 小学校 5・6 年生が優先的に身につけるべき能力を分析・整理し、子どもたちの身近な活動から、「インターネットで調べよう」、「わくわく！ハラハラ？インターネット」、「学校のステキを伝えよう！」、「メールでけんか！どうする？」、「ケータイを持って街へ出かけよう！」という 5 つのテーマを選びました。この学習を通じて、ICT メディアにアクセスし活用する能力、主体的に読み解く能力、コミュニケーションする能力、といった総合的な ICT メディアリテラシーを効率的に育成することができます。
- セミナー学習（学校の授業や、地域で行われるセミナーなど）と、家庭学習（セミナー学習を受講した子どもが保護者と自宅等で行う復習・補習）を組み合わせ、着実な理解を図ることができるような教材です。
- 子どもの興味・関心をひきつけるため、ICT シミュレーターを開発し、体験学習の手法を取り入れました。
- 指導者の負担を軽減するため、具体的な指導方法や必要な情報を収録した「ティーチャーズガイド」と、保護者が子どもと一緒に学べるように、セミナー学習のダイジェストや解説、押さえておきたいポイントなどを収録した「家庭学習用ガイドブック」を作成しました。

このプログラムが広く活用され、全国的に ICT メディアリテラシーの育成・向上、健全なユビキタスネット社会の実現に寄与することを強く願っています。

目 次

家庭学習用ガイドブック

育成プログラムについて	2
育成プログラムで取り上げている学習テーマについて	3
インターネット補助教材について	5

インターネットで調べよう！

セミナーの概要	8
セッション 1：インターネットで検索してみよう！	10
セッション 2：土星の輪について調べてまとめよう！	12
セッション 3：まとめたことを伝えよう！	13

わくわく！ハラハラ？インターネット

セミナーの概要	14
セッション 1：インターネットについて考えよう！	15

学校のステキを伝えよう！

セミナーの概要	20
セッション 1：デジタルカメラで写真を撮ろう！	22
セッション 2：ブログを使って伝えよう！	24
セッション 3：ブログでコミュニケーションしよう！	26

メールでけんか！どうする？

セミナーの概要	32
セッション 1：メールでコミュニケーションしよう！	33

ケータイを持って街へ出かけよう！

セミナーの概要	36
セッション 1：ケータイを体験してみよう！	37

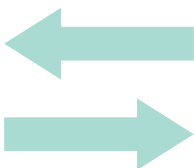
教材制作協力者一覧	40
-----------	----

育成プログラムについて

この育成プログラムは、ICT メディアリテラシーを向上させるために、「セミナー学習」と「家庭学習」の2つで構成されています。



セミナー学習



家庭学習

●セミナー学習

小学校の先生や公民館における一般セミナーの講師などが、一度に30名程度の子どもを対象に行うセミナー形式の学習です。指導者は、本書に沿って、子どもたちを指導します。セミナー学習は、1セッション45分で、導入→展開→まとめという流れで構成されています。（学習テーマ毎に、セッション数は異なります）どの学習テーマも、子どもたちは指導者の解説を聞くことで基礎知識を習得し、ICTシミュレーターでの体験を通じて、習得した知識と行動の関連づけや問題意識の喚起を行います。体験した内容の振り返りや指導者による解説を聞くことで知識の理解を深めます。

使用する教材：学習テキスト、インターネット補助教材

●家庭学習

セミナーを受講した子どもが自宅等で家族と一緒に学習内容を振り返る学習（復習・補習）です。学習ワークシートには、セミナー学習で取り上げられた内容に関する確認クイズや、学習テーマに沿ったインターネット利用を家族と一緒にチャレンジする課題などが盛り込まれています。これらの課題を家族と一緒にチャレンジすることを通じて、子どもたちはセミナーで学んだことに対する理解をより深めます。また、家族の方にICTメディアリテラシーの必要性やその具体的な内容について知ってもらうことも目的としています。

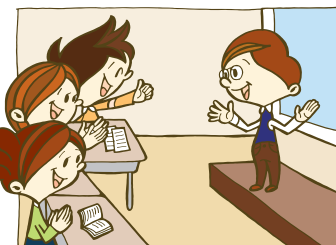
使用する教材：学習ワークブック、家庭学習用ガイドブック、インターネット補助教材

育成プログラムで取り上げている学習テーマについて



インターネットで調べよう！▶▶▶（8 ページ～）

コンピューターやインターネットを活用して情報を収集・編集・伝達する力を養うために、「土星の輪の正体」をテーマとした検索シミュレーターでの体験や学習用ウェブサイトを使った調べ学習を通じて、インターネットで情報を効率的に収集する方法や、正しい情報や事実を見極める方法、分かりやすい発表の仕方について学びます。



45分×3セッション（計135分）



総合



調べ学習



わくわく！ハラハラ？インターネット▶▶▶（14 ページ～）

インターネットを自分の生活の中で活用する力を養うために、解説コンテンツの視聴や迷惑メールシミュレーターでの体験を通じて、インターネットの特性や便利なウェブサービス、インターネットを利用する上で気をつけなければいけないことなどについて学びます。



45分×1セッション（計45分）



道徳・家庭科



体験学習



学校のステキを伝えよう！▶▶▶（20 ページ～）

自分の意見や考えを分かりやすく伝える力や、思いやりをもってコミュニケーションする力を養うために、ブログを使った情報発信やインターネットでのコミュニケーションを体験することを通じて、インターネットで情報を発信する方法や、情報を受発信するためのルールやマナーについて学びます。



45分×3セッション（計135分）



総合



体験学習



メールでけんか！どうする？ ▶▶▶ (32 ページ～)

インターネットの先にいる相手のことを考えながらメールでコミュニケーションする力を養うために、メールシミュレーターや、けんか・仲直りシミュレーターでメールによるけんかのやりとりを疑似体験することを通じて、メールの仕組みや特性、メールを気持ちよく使うためのルールやマナーについて学びます。



45分×1セッション（計45分）



道徳



体験学習



ケータイを持って街へ出かけよう！ ▶▶▶ (36 ページ～)

携帯電話を安全に利用する力を養うために、お使いシミュレーターを使った携帯電話利用の疑似体験を通じて、携帯電話の機能や使い方、利用にあたってのルールやマナー、気をつけなければいけないことなどについて学びます。



45分×1セッション（計45分）



総合・道徳・家庭科



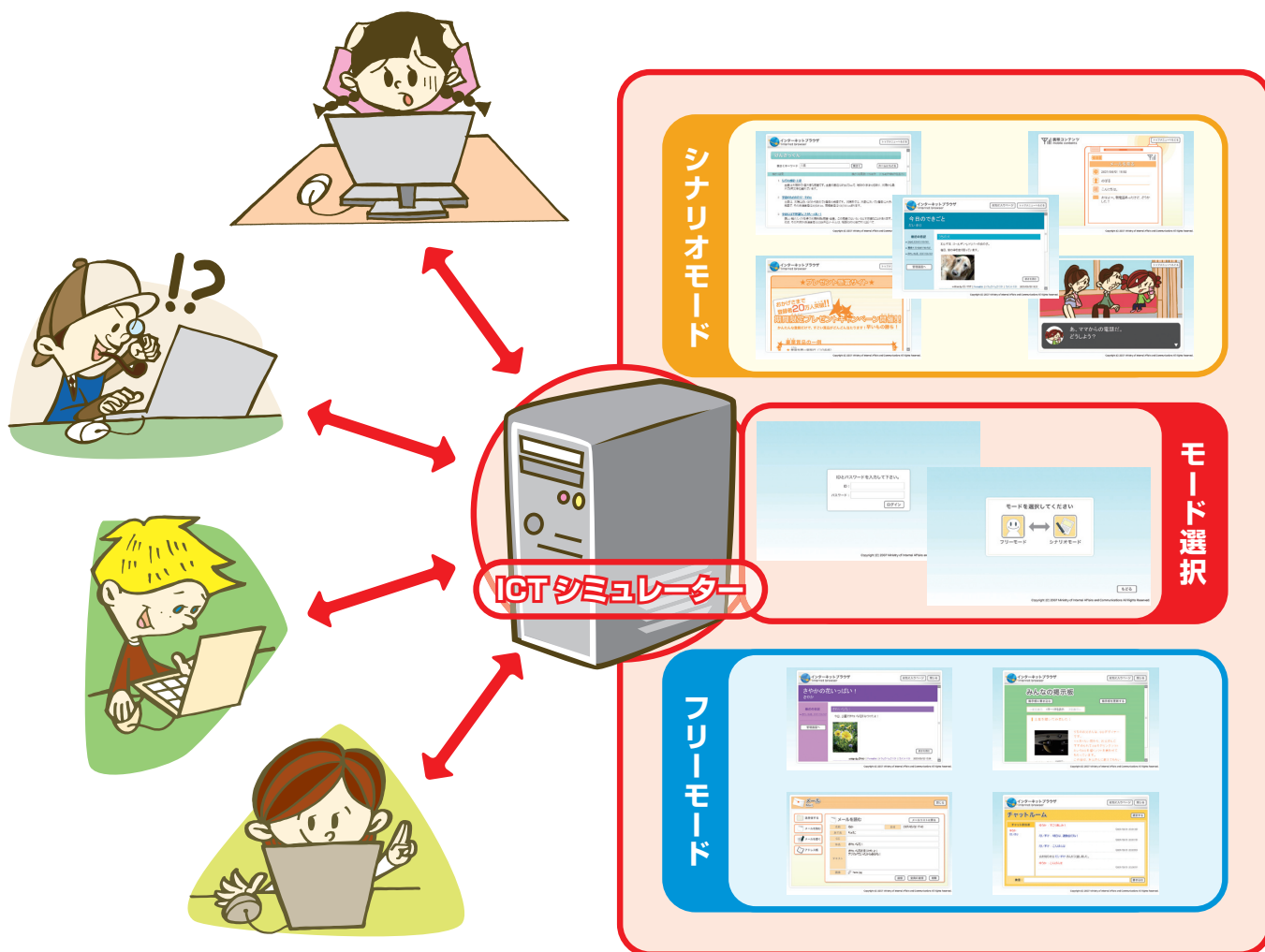
体験学習

インターネット補助教材について

この育成プログラムには、5つの学習テーマを学ぶためのデジタルコンテンツが用意されています。（インターネット補助教材を利用するためには、インターネットへ接続できるコンピューターが必要です）

● ICT シミュレーター

育成プログラムでの疑似体験を実現するために作られたインターネットの教育用シミュレーターです。このシミュレーターは、各学習テーマの内容に沿った疑似体験が行える「シナリオモード」と、指導者が学習テーマの流れの制約を受けることなく、インターネットでのコミュニケーション活動を取り入れた指導を自由に行える「フリーモード」が用意されています。どちらのモードについても、子どもたちは指導者の管理の下で、ブログやメール、チャットなどのコミュニケーションツールでのやりとりを安全かつリアルに体験することができます。



● 解説コンテンツ

各学習テーマの中で取り上げられている内容を解説するためのデジタルコンテンツです。学習内容毎に解説テキストとイラスト（または図）で構成されています。プロジェクターなどの大画面での利用を想定した提示用と、モニターでの利用を想定した自習用が用意されています。

インターネット補助教材の動作環境

Windows	
CPU	Intel® Pentium® II 450 MHz 以上
RAM（メモリ）	128MB 以上
OS	Microsoft Windows 2000 Professional、XP 以上
WWW ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 6.0 以上、Mozilla Firefox1.5 以上
プラグイン	Adobe Flash Player 8.0 以上
通信環境	1.0Mbps 以上の速度でインターネットへ接続できること

Macintosh	
CPU	CPU : PowerPC® G3 500MHz 以上のプロセッサ、IntelCore Duo 1.83GHz クラス以上のプロセッサ
RAM（メモリ）	128MB 以上
OS	Apple Mac OS X 10.1.x/10.2.x/10.3.x/10.4.x 以上
WWW ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 5.2 以上、Mozilla Firefox1.5 以上
プラグイン	Adobe Flash Player 8.0 以上
通信環境	1.0Mbps 以上の速度でインターネットへ接続できること

家庭学習用ガイドブック

本 編

インターネットで調べよう！	8 ～
わくわく！ハラハラ？インターネット	14 ～
学校のステキを伝えよう！	20 ～
メールでけんか！どうする？	32 ～
ケータイを持って街へ出かけよう！	36 ～



インターネットで調べよう！

セミナーのねらい

- ・ 検索シミュレーターでの体験や同じ情報を扱った複数のウェブサイトを見比べることを通じて、インターネットから必要な情報を批判的に収集する力を養う。
- ・ 同じ情報を扱った複数のウェブサイトを見比べることを通じて、ICTメディアにおける送り手の意図を批判的に読み解く力を養う。
- ・ 複数のウェブサイトにある情報をまとめて発表することを通して、情報を編集・処理・伝達する力を養う。

どんなセミナーなの？

Session 1

インターネットで検索してみよう！

検索シミュレーターでの体験を通して、インターネットでは検索サイトを使うことで見つけたい情報を絞り込めることを学びます。さらに、複数のウェブサイトを比較することで、正しい情報や発信者の意図を読み解くことについて学びます。



Session 2

土星の輪について調べてまとめよう！

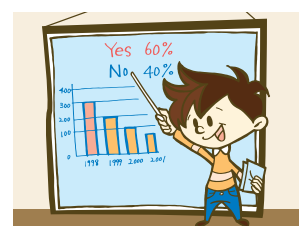
ウェブサイトや図書などを使って、土星の輪の正体について調べ、プレゼンテーションソフトや文書編集ソフトを使って、資料をまとめます。引用の方法や分かりやすい資料の作り方も学びます。



Session 3

まとめたことを伝えよう！

自分で作った資料をもとに、土星の輪の正体についてグループに分かれて発表します。他の人の発表内容に対して、自分の感想や意見を言ったり、他の人から言われた感想や意見をもとに、作った資料や発表方法をより良くする方法について考えたりします。



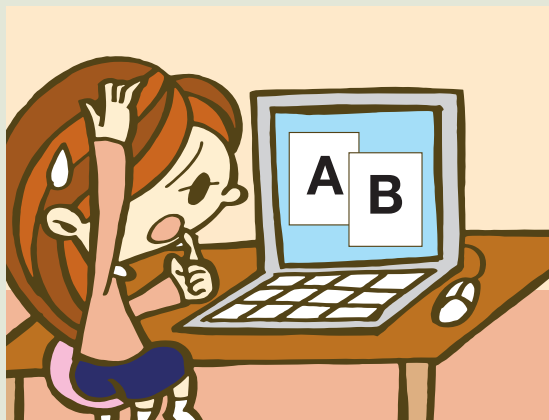
何で学ぶの？

大人になると、仕事でプレゼンテーションをしたり、冠婚葬祭などの行事でスピーチしたり、資料を配ったりすることがあります。子どもの夢や可能性を広げるためには、このような活動を視野に入れて、自分が伝えたいことを他の人にしっかり伝えられる能力を身につけさせることはとても重要です。

上記のような活動に限らず、日常生活ではよく情報収集を行います。インターネットが普及したことで、世間では必要な情報を検索サイトで探す人が増えているよう

です。ところが、インターネットには、悪意のある人が書いたウソや、知識に乏しい人が書いた不確かな情報、うわさなどがあり、インターネットを使っている人はそのような情報にまどわされてしまうことがあります。

テレビや新聞、本などから得られる情報は、テレビ局や出版社などの送り手の意図に基づいて編集されています。中には、事実を誤認させるような内容になっていたり、送り手だけが得する内容になっていたりするものもあります。これからの社会を賢く安全に生きるためには、メディアや人を通じて得た情報について、自分で責任をもって読み解くことが求められています。



このセミナーでは、子どもたちがコンピューターやインターネットを活用して情報を収集・編集・伝達する力を養うため、「土星の輪の正体」をテーマに、インターネットで情報を効率的に収集する方法や事実を読み解く方法、さらには分かりやすい発表の仕方について学びます。



困らないためのキーワード解説

ブラウザ

インターネットにあるウェブサイトを見るためのソフトウェアのこと。コンピューターや携帯電話などで利用することができます。ウェブサイトの情報を保存したり、印刷したりすることもできます。

URL

ウェブサイトを閲覧するときブラウザに入力する場所の名前。

「<http://www.soumu.go.jp>」のような文字で表現されています。

Session 1

インターネットで検索してみよう！

このセッションの学習目標

- 検索シミュレーターでの体験を通じて、自分が求めている情報を探し出すための知識や方法を身につけよう。
- インターネットには正しい情報だけでなく、間違った情報やウソ、うわさがあることを理解しよう。

検索ってなんだろう？

情報を調べることを検索といいます。検索サイトや検索エンジンと呼ばれるウェブサイトでは、調べたいことに関するキーワードを入力すると、インターネットにあるさまざまな情報を分析・整理したデータベース（データの集合）から必要な情報を探して、情報がありそうなウェブサイトのURLを検索結果としてリストアップしてくれます。図書や新聞を使って調べる時は、図書館を訪れる必要がありますが、インターネットを使えばいつでもどこでも情報を探すことができます。



世の中には検索サイトがたくさんありますが、同じキーワードで検索しても検索サイトによって検索結果が異なります。検索サイトの中には、画像やブログを検索できるものや、熟語や英単語を辞書のように調べられるものなど、特定の内容に特化したものが多数あります。



検索してみよう！

学習ワークブックには、次の内容について家族の人と一緒に検索サイトで調べるという課題があります。お子さんと一緒に、ぜひチャレンジしてみてくださいね。

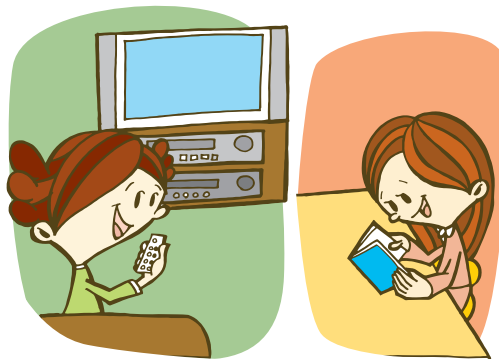
- **こんにゃく**の材料や作り方
- **ミラクルフルーツ**って、どんな果物なの？
- **ペンギン**の住みかは、北極？それとも南極？

インターネットで調べるときの心構え

インターネットを使えば、図書館へ行かなくても、知りたいことを簡単に調べることができる反面、正しい情報だけでなく、間違った情報やウソ、うわさなどの不確かな情報に出会うこともあります。お子さんには、インターネットを使って調べるときは、次のことを気をつけるように伝えましょう。

●さまざまな人の情報を比較しましょう！

インターネットやテレビ番組、新聞などの情報は、その情報を伝える人や会社の意見や考えによって作られています。中には、送り手に都合の悪いことは書かずに、送り手が得することばかり書いてあるものもあります。お子さんには、調べごとをするときは、1つの情報を鵜呑みにせず、インターネットやテレビ、新聞などにあるさまざまな情報を比較しながら、必要だと思う情報や正しいと思う情報を集めるように伝えましょう。



●おおげさな表現に気をつけましょう！

商品を紹介するウェブサイトには、商品を気に入ってもらえるように、商品の良い点が目立つように書かれています。中には読んだ人が勘違いするようなまぎらわしい表現のものもあります。

例えば健康食品は法律上、医薬品のようにどんな病気や症状に効果があるということを記載してはいけませんが、健康食品を紹介するウェブサイトの中には、読者が効能があると誤解するような表現で作られているところがあり、そのような広告が社会問題にまで発展しました。

お子さんには、広告などを例にインターネットでおおげさな表現のウェブサイトに出会ったときは、そのウェブサイトの情報を鵜呑みにしないように気をつけることを伝えましょう。

●ウソやうわさに惑わされないようにしましょう！

インターネットには、ブログや掲示板にいたずら目的で、ウソやうわさを書き込む悪い人がいます。インターネットで調べるときは、常にウェブサイトに掲載される情報が正しいかどうか疑いながら、慎重に情報を収集する必要があります。お子さんには、インターネットで調べごとをするときは、常に「この情報、本当かな？」という気持ちを忘れてはいけなことを伝えましょう。正しい情報かどうかを判断するには、複数のウェブサイトを見て同じ内容が登場するか調べてみるのが有効です。



Session 2

土星の輪について調べてまとめよう！

このセッションの学習目標

- インターネットや図書などから「土星の輪の正体」について調べ、収集した情報と自分の意見を区別しながら、他の人に伝わるように情報編集ツールを使ってまとめよう。
- 情報を鵜呑みにせず、自分で判断して適切な情報を選択しよう。

引用ってなんだろう？

他の人が作った文章や図などの一部を報道や批評、研究のために自分で作った資料や文章にそのまま載せることを「引用」といいます。例えば、読書感想文を書くために、ある文に対して感想を書きたいとき、読書感想文の中にその文を書かないと伝わらないことがあります。そのような場合、感想を伝える上で必要最低限の文を読書感想文の中に書くことは引用にあたります。

引用するときは、引用部分をかっこで囲ったりして、自分が書いた文章と区別しなければなりません。また、引用した資料の名前や作者についても書く必要があります。引用部分について、作者の許可をとらずに言葉を変えたり、書き足して使うことは「著作権の侵害」にあたるため、注意が必要です。

近年、子どもたちの中には、作文などの宿題が出ると、インターネットや本で見つけた文章をそのまま写してしまう子がいます。これは、宿題そのものをこなしていないことになってしまいますが、それ以上に他の人が作ったものを自分のものとして使用しているという点でとても大きな問題です。このようなことをしているほとんどの子どもは、ウェブサイトや本から文章をそのまま写すことが悪いことだと思っていないようです。もし、お子さんがそのようなことをしていたら、決して怒らずに引用のルールや著作権の侵害について教えましょう。

分かりやすい資料の作り方

自分が伝えたいことを多くの人に理解してもらうためには、分かりやすく伝えることがとても重要です。特に、発表という形で相手に伝えるときは、伝える相手に合わせて分かりやすい資料を作ることが求められます。このセッションでは、分かりやすい資料の作り方として次の4点について教えます。

- 一番伝えたいことを一番目立たせる
- 数字を使う
- 図を描く
- 内容ごとにグループに分ける

まとめたことを伝えよう！

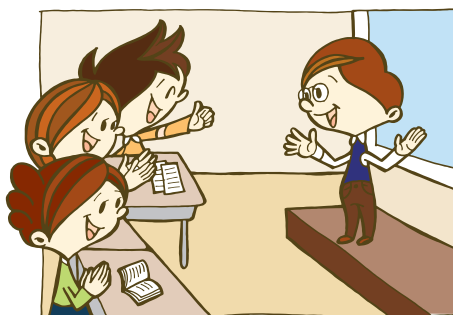
このセッションの学習目標

- 「土星の輪の正体」についてまとめた内容を他の人に伝えよう。
- 聞いてくれた人の意見や感想をもとに、どうすればより分かりやすくまとめられるかについて考えよう。

上手に発表するコツ

自分が伝えたいことを他の人に発表するとき、分かりやすい資料を用意することは大切ですが、伝えたい人にあった発表の仕方を考えることもとても重要です。どんなに資料がすばらしくても、発表が分かりづらければ、自分の意見や考えを相手に理解してもらえないこともあります。

このセッションでは、自己表現の練習として、自分で作った「土星の輪の正体」に関する資料を使って、他の人にまとめた内容を伝える練習を行います。子どもたちには、上手に発表できるように以下のようなコツを教えます。このような能力は、普段の生活ではあまり発揮されませんが、将来仕事についたときに大いに役立つ能力です。もし、お子さんが学校での発表活動に疑問を抱いていたら、仕事や冠婚葬祭などの活動を例に学ぶことの必要性について教えましょう。



1. 背筋を伸ばして、顎を軽く引き、聞いている人たちに目を向ける。
2. 大きな声で、はっきりと、ゆっくり話す。
3. 今話しているところの資料を指示棒や手で指す。
4. 聞いている人の様子を見て、分かってもらっているかを考えながら話す。
5. 話すときは笑顔で心をかける。

お子さんの作品を見てあげましょう！

学習ワークブックには、セミナーで作った資料を使って、家族の人に「土星の輪の正体」について伝える課題があります。もし、お子さんが自分で作った資料を見せたときには、しっかり耳を傾けてください。お子さんが作った資料を見たときは、その資料に対する意見や感想、直した方が良いところについて教えましょう。



わくわく／ハラハラ？インターネット

セミナーのねらい

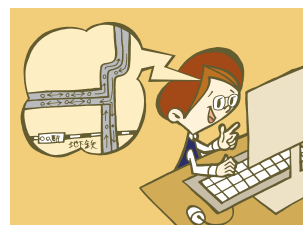
- ・インターネットの特性や生活をより豊かにする便利なウェブサービスについて理解するとともに、危険な側面も知ること、インターネットを自分の生活の中で上手に活用するための力を養う。

どんなセミナーなの？

インターネットについて考えよう！



インターネットの特性や便利なウェブサービスについて学びます。後半では、迷惑メールシミュレーターでプレゼント懸賞への応募や迷惑メールを体験し、個人情報等をうかつに書き込むことの危なさや望まない情報への対処方法について学びます。



何で学ぶの？

インターネットは、さまざまな人たちの努力のおかげで、私たちの生活を支えるとても重要なメディアになりました。インターネットは、テレビや新聞などのマスメディアと異なり、私たち1人1人が情報を自由に受発信したり、メールやチャットなどのコミュニケーションツールを使って、遠くの人とコミュニケーションできる唯一の双方向メディアです。ここ数年、ネットワークの高速化やコンピュータの高性能化が進んだことで、インターネットには経路探索や通信販売、役所への各種届出など、私たちの生活をより豊かにする便利なウェブサービス（インターネット上で提供されるサービス）がたくさん登場しました。携帯電話のさらなる普及や情報教育の浸透により、近い将来、大人から子どもまで、インターネットを自由自在に使う時代が来るかもしれません。

このよう便利なウェブサービスが登場する一方で、インターネットには偽のウェブサービスを使って個人情報やプライバシーに関する情報を盗んだり、コンピューターや携帯電話を壊そうとしたり、お金を取ろうとしたりする悪い人が現れました。インターネットを安全に活用するためには、トラブルに巻き込まれないための知識や対処方法を身につけることが大切です。また、インターネットを活用したり、悪意のある行為から身を守ったりするためには、インターネットの特徴を知ること重要でです。

このセミナーで、お子さんはインターネットの特性や便利なウェブサービスについて学ぶとともに、インターネットにはさまざまな危険があり、気をつけて使わなければいけないことを迷惑メールシミュレーターを使って体験しながら学びます。

インターネットについて考えよう！

このセッションの学習目標

- インターネットの利点と気をつけなければいけないことを理解しよう。
- インターネットには私たちの生活をより豊かにする便利なウェブサービスがあることを理解しよう。
- インターネットには、私たちがいやな思いをさせたり、危ない目に遭わそうとしたりする人がいることを知り、個人情報をつかずに教えたり、甘い誘いに乗ったりしてはいけないことを理解しよう。

インターネットの良いところ

世界中のコンピューターを繋いで、文章や写真、映像などの情報を互いに使えるようにしたネットワークのことをインターネットといいます。インターネットは、これからの私たちの生活にかかせない重要なメディアです。ネットワークの高速化やコンピューター・携帯電話の高性能化により、インターネットは私たちの生活により深く関わってくることは間違いありません。ここでは、インターネットの良いところについて学びます。



(1) すごく速い！

インターネットは、ブログやメール、掲示板などを介して、一瞬で情報が伝わっていきます。手紙なら数日かかる情報も、インターネットを使えば一瞬で伝えられます。

(2) とにかく広い！

インターネットでは、1つのウェブサイトを多くの人が見ることができるため、情報を広範囲に伝えることができます。テレビや新聞は特定の地域への情報発信に限定されがちですが、インターネットなら世界規模で情報を発信できます。

(3) 誰でも自由に受発信できる！

インターネットは、テレビや新聞などのメディアと違い、誰でも好きなタイミングで情報を受発信することができます。

わくわくする便利なウェブサービス

インターネットには、私たちの生活をより豊かにする便利なウェブサービスがたくさんあります。このようなウェブサービスの多くは、調べる、買う、予約するなど、私たちの行動をサポートしてくれるものばかりです。携帯電話が進化したことで、これらのウェブサービスはいつでもどこでも利用できるようになりました。これらのウェブサービスを小学生や中学生が使うことは少ないかもしれませんが、これからの時代を賢く生きる力を身につけさせるために、このセミナーでは子どもたちの実態に応じて簡単に紹介します。

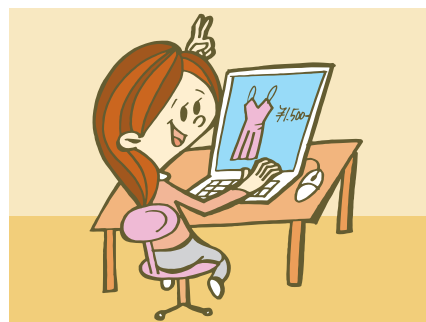
●調べる！

目的地までの行き方を調べたいとき、経路探索サービスを使えば、乗り継ぎ方法や料金などを簡単に調べることができます。経路探索サービスは、多くの検索サイトが無料で提供しています。中には、電車やバス、航空機といった乗り物だけでなく、歩き方を教えてくれるところもあります。会員登録することで、コンピューターで調べた経路を携帯電話で確認できるサービスもあります。



●買う！

家の近所にお店がない場合、インターネット通信販売サービス（略して、ネット通販）を使えば、わざわざお店まで行かなくても、自宅にいながらショッピングを楽しむことができます。買いたい物によっては、ネット通販の方が安く入手できることがあります。最近では、インターネットオークションを利用する人も増えているようです。どちらも気楽にショッピングを楽しめますが、在庫不備や配送ミスなどのトラブルに巻き込まれることがあるため、注意が必要です。もし、お子さんが間違っってこのようなウェブサービスに入り込んでしまった場合は、それ以上クリックせずに閉じるか、大人を呼ぶように伝えましょう。



●予約する！

電車やバス、航空機などの席予約が必要なときは、駅や空港に行かなくてもウェブサイトで席を予約することができます。ホテルやレジャー施設などの予約も、コンピューターや携帯電話から簡単に行えます。一部の図書館や清掃工場では、図書の予約や粗大ゴミの回収予約をインターネットで申し込むことができます。引越しの届出や税金、年金に関する手続きなどのウェブサービスも、これからどんどん使いやすくなるようです。



インターネットには、ハラハラもいっぱい！

インターネットは、とても便利な反面、使い方を間違えるとコンピューターや携帯電話が壊れたり、嫌な思いや怖い思いをしたりすることがあります。このような悲しいことが起こる原因の多くはインターネットの特性にあるといえます。お子さんにインターネットの特性について話すときは、良い側面だけでなく、次に挙げる危険な側面についても取り上げましょう。

●クリック１つで決まっちゃう！

インターネットは、クリック１つでさまざまなことができる反面、クリック１つで嫌な思いや怖い思いをすることがあります。お子さんには、ボタンやリンクをクリックする前に、それを本当にクリックすべきかどうか考えるようにすることを教えましょう。

●やり直しができない！

インターネットに一度情報を発信すると、あっという間にいろいろな人に広がってしまいます。一度インターネットに流れてしまった情報は撤回・消去できません。間違えた情報を発信して、他の人の迷惑になったら大変です。お子さんには、ブログや掲示板などで情報を発信するときは、発信する前に間違いがないかしっかり確認するように伝えましょう。（ブログや掲示板を子どもだけで利用させてはいけないという考え方もあります）

●誰だか分からない！

インターネットは、自分の名前や連絡先などを公開しなくても、情報を発信できるため、自分の身元を明かさずに人をだましたり、嫌がらせしたりする人がいます。もし、何かあったときに、犯人を調べるのはとても大変です。お子さんには、ブログやチャット、掲示板などで知り合った人とやりとりするときは、直接会って話すときよりも、慎重になるように伝えましょう。



●どうしよう？

コンピュータや携帯電話でメールを使っていると、ウィルスメールや架空請求メール、さらにはプレゼントやアンケートを装った個人情報を搾取するメールなどが送られてくることがあります。これらのメールは無視しても構わないものですが、インターネットの仕組みを知らない人は、どう対応すればよいかわからないかもしれません。お子さんには、このようなメールが送られてきたら、無視して捨てるか、家族に相談するように伝えましょう。



インターネットを安全に使うための心構え

インターネットを使うときも、家の外を歩くときと同じように、自分の身は自分で守らなければなりません。インターネットには危険なものがたくさんあるのも事実です。お子さんが自宅や学校などでインターネットを安全に活用できるようになるためにも、次のことをしっかり教えましょう。

●甘い言葉には気をつける！

危険なウェブサイトへのリンクが書かれたメールには、「プレゼント」や「無料」など、メールを受け取った人がリンクをクリックしたくなるような甘い言葉がたくさん書かれています。これは、メールだけでなく、ウェブサイトについても同じ事がいえます。お子さんには、このようなキーワードにつられて、むやみにリンクをクリックしないようにすることを伝えましょう。



●名前や住所はむやみに書き込まない！

多くのウェブサイトは、本人確認のために個人情報の登録を求めています。プレゼント懸賞サイトやゲームなどのコンテンツ配信サイトの一部には、登録された個人情報を別の業者に売ったり、本来の目的以外のことに使ったりするような悪質なところもあります。また、小学校高学年になると、プロフィールサイト（プロフサイト）という自分の趣味や性格などの情報を他の人に公開するウェブサイトを使っている子どもが増えてきます。このようなウェブサイトにな名前や住所などの個人情報を書くことは大変危険です。お子さんには、ウェブサイトには個人情報をうかつに登録したり、書き込まないように伝えましょう。



●怪しいウェブサイトにはアクセスしない！

小学校高学年になると、ポルノサイトやオカルトサイト、裏情報サイトなどにアクセスしたがる子どもが出てきます。当然、これらのウェブサイトは教育上好ましくない上、コンピューターウイルスや不正プログラムをコンピューターに潜り込ませたり、コンピューターを壊そうとしたりするものが多く、大変危険です。お子さんには、このようなウェブサイトにはアクセスしないように教えるとともに、偶然アクセスしてしまったときは、急いでそのウェブサイトから立ち去ることをしっかり教えましょう。万が一に備えて、お子さんが使うコンピューターに「フィルタリングソフト」という危険なウェブサイトへのアクセスを防いでくれるソフトを利用することも検討しましょう。





家族で話し合いましょう！

インターネットは、大人にとっても、子どもにとっても、とても便利で魅力あるメディアです。特に、ここ数年インターネットにはゲームや映像、音楽などのエンターテインメントコンテンツが凄い勢いで登場しているため、お子さんにインターネットを勝手に使わせてしまうと、のめり込んでしまう可能性があります。そのような状況が長く続くと、「ネット中毒」や「ゲーム依存症」といわれる状態に陥り、「やる気がでない」、「ネットを見てないと不安になる」、「ゲーム以外のことをするのが面倒」など、お子さんの発育に大きな悪影響を及ぼしかねません。このような取り返しのつかないことにならないためにも、お子さんにインターネットを使わせるにあたっては、インターネットを健全に使うためのルールについて家族でしっかり話し合しましょう。

話し合う内容の例

● 1日のインターネット利用時間

インターネットは、テレビゲームと同じように、モニターを長時間凝視することになります。使用時間が長ければ長いほど、目や肩、腰などに負担がかかります。特に目においては、長時間利用が視力低下につながるといわれています。お子さんの健康のためにも、1日のインターネット利用時間に上限を定めるようにしましょう。

● 使って良いサービス・使ってはいけないサービス

インターネットには、経路探索や通信販売、音楽配信やコミュニティーなど、私たちの生活をより豊かにする便利なウェブサービスだけでなく、ポルノや暴力、犯罪など、子どもに不適切な情報を提供するウェブサービスもあります。これらのウェブサービスは、国の規制に応じて子どもが入れないように対策を行っていますが、検索サイトから簡単にアクセスすることもできます。例えば、インターネット通信販売（ネット通販）であれば、子どもが通販サイトを勝手に使って、コンビニでの後払いで買い物をすることができます。暴力や犯罪に関するウェブサイトにアクセスした子どもが、そこで情報を得たことがきっかけとなって非行に走るかもしれません。お子さんにインターネットを使わせるときは、使って良いウェブサービスについてしっかり線引きをしましょう。不適切な情報については、フィルタリングソフトを利用して、強制的にアクセスさせないようにすることも考えましょう。

● コンピューターがおかしくなったときの対処方法

インターネットには、アクセスするだけでコンピューターウイルスに感染したり、コンピューターを暴走させるプログラムを実行する悪質なウェブサイトが存在します。インターネットを健全に使っていれば、そのようなウェブサイトにアクセスすることはありませんが、リンク集や検索結果から他のウェブサイトを探索しているうちに、偶然そのような悪質なウェブサイトにアクセスしてしまうことがあります。ウイルスについては、ウイルス対策ソフトを使用していれば、感染を防ぐことはできますが、コンピューターを暴走させるプログラムについては防げないことがあります。もし、ブラウザの調子がおかしくなったり、コンピューターが動かなくなっても慌てないで済むように、コンピューターがおかしくなったときの対処方法（ブラウザを閉じる、パソコンの電源を切る操作をする、パソコンの電源を強制的に切る、など）について、お子さんとしっかり確認しておきましょう。



学校のステキを伝えよう！

セミナーのねらい

- ・ ブログの作成や自分が伝えたいことを分かりやすい文章や写真などで表現することを通じて、インターネットで情報発信するための力を養う。
- ・ ブログを読んだり、コメントを書いたりすることを通じて、インターネットの先にいる相手と思いやりをもってコミュニケーションする力を養う。

どんなセミナーなの？

Session 1

デジタルカメラで写真を撮ろう！

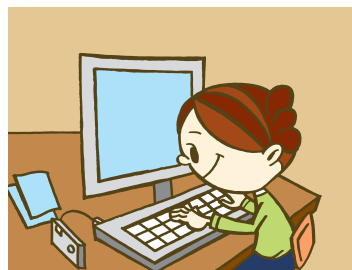
デジタルカメラの基本的な仕組みや使い方、いろいろな写真の撮り方などを学び、ブログを使って学校のステキを伝えるための写真を撮ります。カメラポジションやカメラアングルなどの撮影方法やカメラが動かないように構えること、光の向きを考えることなど、撮影上の注意を学びます。



Session 2

ブログを使って伝えよう！

ブログの仕組みや操作方法について学び、写真と文章を使ってブログを作ります。ブログ作りに入る前に、分かりやすい文章の書き方を学ぶことで、他の人に伝わるような文章を書くことを意識します。ブログを作る過程で、肖像権や個人情報の扱いについて配慮することの必要性について学びます。



Session 3

ブログでコミュニケーションしよう！

友だちのブログを読んだり、自分の意見や感想などのコメントを書くことで、ブログでのコミュニケーションを体験します。他の人とブログでコミュニケーションすることにより、コミュニケーションの楽しさやインターネットでも思いやりのある行動をとることが大切であることを学びます。



何で学ぶの？

皆さんは、ブログというものをご存知ですか？

ブログは、ウェブログ（Weblog）の略でコンピューターや携帯電話のブラウザから日記を書く感覚でウェブサイトを作ることができるコミュニケーションツールです。プロバイダーや検索サイトがブログサービスを無料で始めたことをきっかけに、大人から子どもまで幅広い年齢層の人がブログを持つようになりました。

これからの高度情報社会では、子どもたちがブログやメールなどを使ってインターネットに情報を発信することは日常的なコミュニケーション手段の1つになることは間違いありません。自分の意見や考え、物事の情報を発信するためには、伝えたい内容をどのように表現し、どのような手段を使って伝えるかについて考えることがとても重要です。さらに、インターネットで情報を安全に発信するためには、肖像権や個人情報といったプライバシーや人の権利に関するルールやマナーを守ることが求められます。

このセミナーで、子どもたちはブログを使った情報発信やコミュニケーションを体験することを通じて、インターネットでコミュニケーションする相手のことを考えながら安全に情報を発信できるようになるための知識やルール、マナーについて学習します。



困らないためのキーワード解説

インターネット

世界中のコンピューターを繋いで、文章や写真、映像などの情報を互いに使えるようにしたネットワークのこと。

ウェブサイト

インターネットにある新聞や本のような情報（文章や図、映像など）を発信している場所のこと。「ホームページ」と呼ばれることもあります。ブログや掲示板はウェブサイトの一種です。

ブラウザ

インターネットにあるウェブサイトを見るためのソフトウェアのこと。コンピューターや携帯電話などで利用することができます。ウェブサイトの情報を保存したり、印刷したりすることもできます。

URL

ウェブサイトを閲覧するときブラウザに入力する場所の名前。

「http://www.soumu.go.jp」のような文字で表現されています。

Session 1

デジタルカメラで写真を撮ろう！

このセッションの学習目標

- デジタルカメラの基本的な仕組みと使い方を理解して、写真が撮れるようになる。
- 自分が伝えたいことを伝えられるような写真を撮ってみよう。

いろいろな写真の撮り方

●フルショットとアップショット

写真は被写体の撮る部分を変えることで、伝えたいことを変えることができます。被写体全体を写真に撮ることを「フルショット」といい、被写体全体の雰囲気を伝えるときに使います。逆に、被写体の一部だけを撮ることを「アップショット」といい、被写体の一部について詳しく伝えたいときに使います。

被写体……写真に写っている人や物、景色のこと。



フルショットで撮った写真。船全体の雰囲気が分かります。



アップショットで撮った写真。船の上での人の様子が分かります。

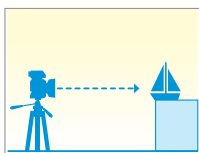
●カメラアングルとカメラポジション

ここでは、撮り方を変えた3つの写真を例に、カメラアングル（被写体の方に向いているカメラの角度）やカメラポジション（被写体とカメラの位置関係）を変えることで、同じ被写体でも別の印象を与える写真を撮ることができるということについて学びます。

正対（正面）



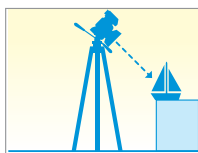
船を船と同じ高さから撮ったもの。遠くから船を見ているような印象を与えます。



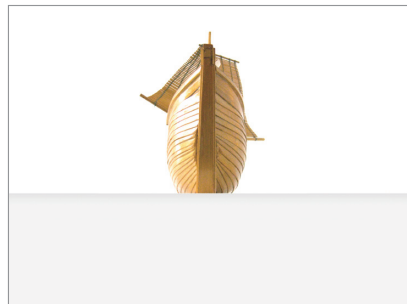
ハイアングル・ハイポジション



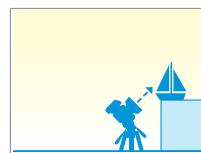
船を斜め上から撮ったもの。空から船を見ているような印象を与えます。



ローアングル・ローポジション



船を斜め下から撮ったもの。船着場から船を見ているような印象を与えます。



上手に撮影するコツ

●カメラをしっかり固定しよう！

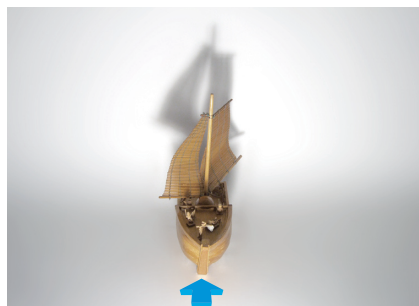
写真を上手に撮るためには、カメラをしっかり固定することが重要です。ここでは、カメラの正しい持ち方として、次の3点について学びます。

1. 両手でしっかりと持つ
2. 脇をしめる
3. 身体が動かないような体勢を保つ

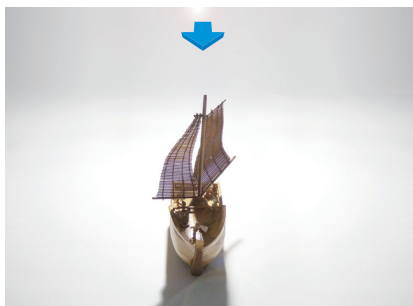


●光の向きを考えよう！

写真を撮るときに、被写体に当たる光の向きを考えることはとても重要です。どんなに被写体や構図（被写体の位置関係）が良くても、光の向きを間違えただけで、その写真が台無しになってしまうこともあります。ここでは、順光・逆光・斜光を例に、光の向きによって被写体の印象が変わってしまうことを学びます。



順光で撮った船。船の正面をはっきり確認することができます。



逆光で撮った船。船の正面が暗いため、不気味な雰囲気伝わってきます。



斜光で撮った船。片側にしか光が当たっていないため、反対側は暗くなっています。



お子さんと一緒にチャレンジ！

学習ワークブックには、「この写真、どうやって撮ったんだろう？」と、「この写真、何を伝えたいんだろう？」というクイズがあります。このクイズは、学習ワークブックに掲載された写真を見て、その写真の撮影方法や写真を撮った人が伝えなかったことについて考えるといったものです。家族の皆さんも、お子さんと一緒にぜひチャレンジしてみてください。

（正解は、このガイドブックの 30 ページをご覧ください）

Session
②

ブログを使って伝えよう！

このセッションの学習目標

- 自分の伝えたいことについて、分かりやすい文章を書いて、写真と共にブログへ登録しよう。
- 肖像権や個人情報に配慮することの大切さに気づいて、ブログを作るときに実践できるようにしよう。

ブログってなに？

ブログを利用すればウェブサイトに関する専門的な知識やスキルがなくても、日記を書く感覚でウェブサイトを作ることができます。

自分が伝えたいことを表現した文章や画像をブラウザからブログに書き込むと、あらかじめデザインされたウェブサイトからインターネットへ公開されるような仕組みになっています。

ブログ利用者は自分でブログを書いたり、他の人のブログに書かれている記事を読んだり、記事に対してコメントを書き込んだりすることで、他のブログ利用者とコミュニケーションすることができます。自分のブログに、記事に関連する他のブログへのリンク（トラックバック）を貼ったり、天気予報や動画、ミニゲームなどのパーツ（ブログシールやブログパーツという）を貼り付けることで、より魅力的なブログを作ることができます。



分かりやすい文章の書き方

インターネットでは、メールやブログを見て分かるように、文字を使ったコミュニケーションが主流となっています。インターネットの先にいる相手とスムーズにコミュニケーションするためには、分かりやすい文章を書けることが求められます。ここでは、小学校5・6年生でもすぐに実践できる分かりやすい文章の書き方について学びます。

1. 言葉の並び順を考えよう！
2. 1つの文を短くしよう！
3. 事実と自分の意見や感想は分けて書こう！

その写真、勝手に公開していいのかな？

ウェブサイトには、文章だけでなく、イラストや写真、映像といったさまざまな情報が公開されています。特に、デジタルカメラやカメラ付携帯電話が普及したことで、自分で撮影した写真をブログで公開する人が増えました。人には肖像権があることは皆さんもご存知だと思いますが、人の顔や姿が映っている写真をブログなどで公開する場合、写真に写っている人から許可をとらなければいけないことを知っている人は意外と少ないかもしれません。写真を公開する人の中には、「許可をとるのが面倒」といった理由や、「商売で使うわけじゃないから許可をとらなくても良いのでは？」といった誤解のもとで、他の人が写っている写真を無断で利用している人がいます。顔写真は犯罪に使われる可能性があるため、インターネットへ公開するときは慎重になる必要があります。ここでは、ブログを作る過程の中で、肖像権の存在や配慮の必要性について学びます。保護者の皆さんも、お子さんが自宅などでインターネットに人の写真や似顔絵を公開しようとしているときは、必ず声をかけて写真や似顔絵を公開することの危険性や写っている人に許可をとらなければいけないことを教えましょう。



名前や住所などを書く前に考えよう！

相次ぐ企業の情報漏洩事件や犯罪被害者への報道被害を背景に、プライバシーや個人情報に対する関心が高まっています。世間には、入手した個人情報を名簿として企業に販売したり、嫌がらせに使ったりする人がいます。中には、入手した個人情報を、恐喝や誘拐などの犯罪行為に使う人もいます。このような人たちの多くは、インターネットのウェブサイトや掲示板などから個人情報を収集しています。インターネットを安全に利用するためには、このような人たちに個人情報を知られないように、個人情報を大切に管理することを習慣づける必要があります。ここでは、インターネットにはブログや掲示板などに書かれている名前や住所、メールアドレスなどの情報（個人情報）を使って嫌がらせをしたり、本人になりすまして悪いことをしたりする人がいることを知り、ブログや掲示板のように大勢の人が見るところには自分や他の人の個人情報を書いてはいけないことを学びます。もし、お子さんがブログや掲示板に個人情報を書き込もうとしたら、個人情報をうかつに書き込んではいけないことをしっかり教えましょう。



Session
3

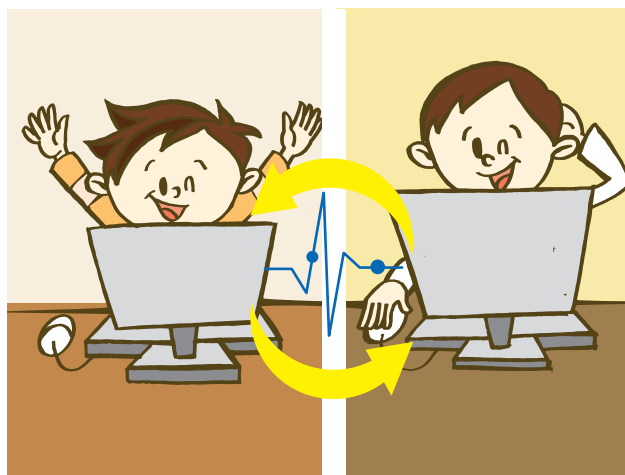
ブログでコミュニケーションしよう！

このセッションの学習目標

- コメントを読んだり書いたりすることで、インターネットの先にいる相手とコミュニケーションしよう。
- インターネットの先にいる相手に対して思いやりをもってコメントを書こう。

コメントを書くときは思いやりを忘れずに

メールやブログの登場により、自分の気持ちや意見を直接顔を合わすことなく、文字だけで伝える機会がとて増えています。メールやブログは、基本的に自分が伝えたいことを文字だけで表現する必要があるため、声や身振りが使えるときよりも、自分の伝えたいことが相手にうまく伝わらないことがあります。インターネットを介して行うコミュニケーションは、直接顔を合わすことなく相手とやりとりできるため、普段言いづらかった



ことを伝えられる反面、言動が攻撃的になったり、感情的になったりすることもあります。そのようなインターネットの特性が現れている行為として、「荒らし」と「炎上」が問題視されています。「荒らし」は、掲示板やブログに意味不明な文字や人々が不快に思うことをたくさん書き込む行為です。一方、「炎上」はブログや掲示板などで繰り返される言い争いやけんかです。どちらも、思いやりのない行動が原因で起こっていると考えられます。ここでは、ブログを作ったり、コメントを書いたりするときも、ブログを読む人々への思いやりを忘れてはならないことについて学びます。



お子さんの成果をチェックしましょう！

学習ワークブックには、「家族との思い出についてブログに書いてみよう！」という課題があります。この課題は、分かりやすい文章を書くことを意識しながら家族との思い出について、セミナーで使っているブログシミュレーターに書き込み、家族に見せて感想や意見をコメントとして書き込んでもらうといった内容になっています。もし、お子さんがブログを見て欲しいと話しかけてきたら、ブログを見て、感想や意見をコメントとして書き込んであげましょう。

(コメントの書き方は、このガイドブックの 29 ページをご覧ください)

もしものときの対処方法

インターネットは、これからの私たちの生活をより豊かにしてくれることは間違いありませんが、使い方を間違えると取り返しのつかないような危険なことに巻き込まれることもあります。

このテーマではコミュニケーションツールとしてブログを取り上げていますが、決してブログを始めることをお勧めするものではありません。ブログや掲示板はインターネットにいる不特定多数の人に情報を簡単に発信できるゆえ、これらの体験を通じて肖像権や個人情報、人に対する思いやりなど、インターネットを安全に利用するためのたくさんのことを学ぶことができます。自分のコンピューターや携帯電話を持つようになれば、保護者の目の届かないところでブログを使い始める子どもも出てきます。このテーマは、そのような場合に備えて事前に自分の身を守るための術を身につけることを視野に入れています。しかし、いくら身を守る術を知っていても、自分で解決できないトラブルもあるはずです。もし、お子さんがブログでのトラブルについて相談してきたら、慌てずに話を聞き、必要に応じて次のようなウェブサイト相談しましょう！

警視庁 インターネット安全・安心相談

<http://www.cybersafety.go.jp/>

ここでは、インターネットに関するさまざまな相談を受け付けています。トラブルの内容に応じて、基本的な対処方法についての情報を提供しています。

インターネットホットライン連絡協議会

<http://www.iajapan.org/hotline/>

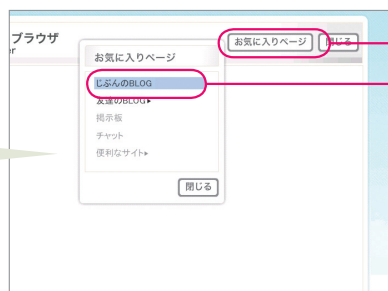
ここでは、インターネットに関するさまざまなトラブルの相談窓口を紹介しています。インターネットに関するトラブルは、その内容によって専門機関が異なります。まずは、このウェブサイトでのどの相談機関に相談すれば良いのか調べることをおすすめします。

メモ欄

ブログの作り方

① “お気に入りページ”

ボタンをクリックし、リストが表示されたら “自分のブログ” をクリックします。



①ここをクリック

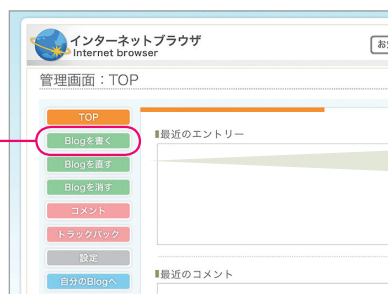
②ここをクリック

ここをクリック



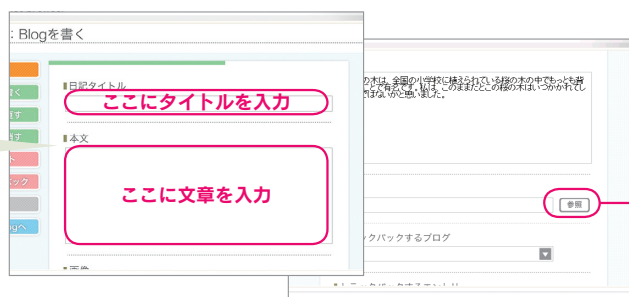
②画面の左側にある “**管理者画面へ**” ボタンをクリックします。

ここをクリック



③画面の左側にある “**Blog を書く**” ボタンをクリックします。

④タイトル、本文を入力します。画像を公開する場合は、“参照” ボタンをクリックして、公開したいファイルを選択します。



ここにタイトルを入力

ここに文章を入力

ここをクリック

⑤入力した内容に間違いがないか確認したら、“保存” ボタンをクリックします。



これをクリック

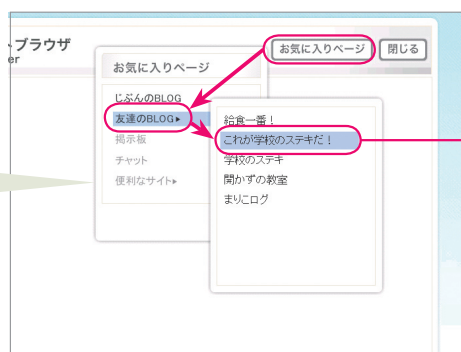
ブログが完成



コメントの書き方

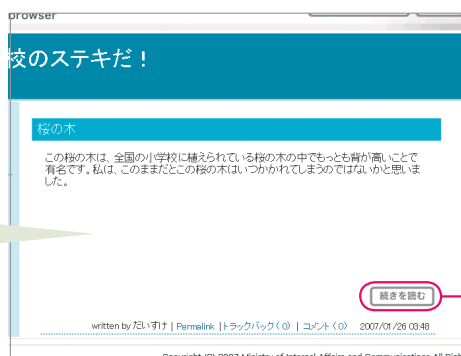
① “お気に入りページ”

ボタンをクリックし、リストが表示されたら見たいブログをクリックします。



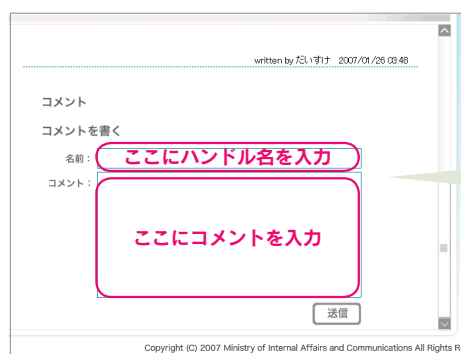
矢印の流れに合わせてクリック

② コメントを書きたい記事の下にある “続きを読む” ボタンをクリックします。

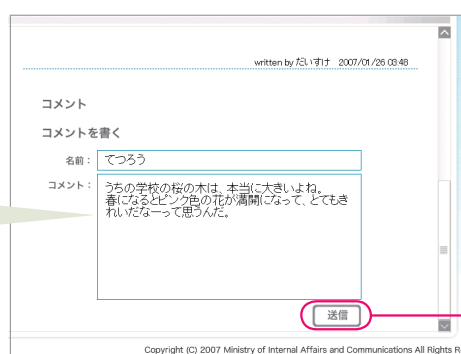


ここをクリック

③ スクロールバーで画面を下にスクロールさせて、コメントを書く欄を表示し、あなたのハンドル名、コメントを入力します。

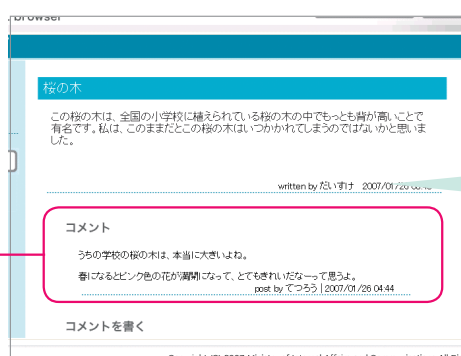


④ 入力した内容に間違いがないか確認したら、“保存” ボタンをクリックします。



ここをクリック

新しく書き込まれたコメント



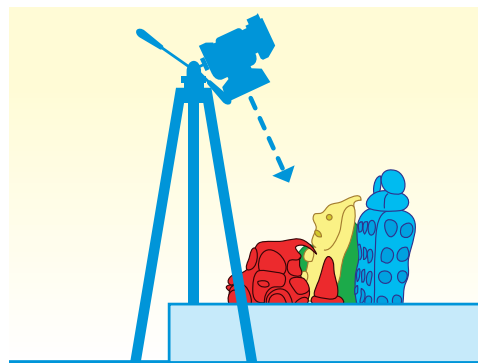
コメントの
書き込み完了

この写真、どうやって撮ったんだろう？ - 正解 -

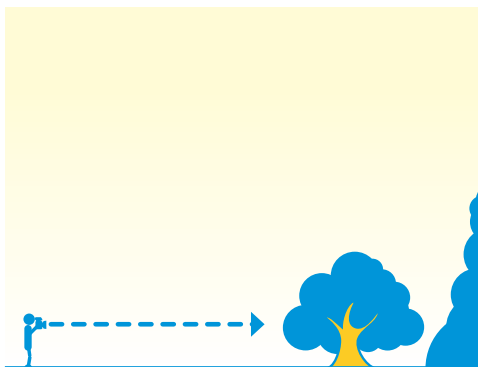
次の写真を見て、その写真は^{さつえい}どうやって撮影されたかについて、学習テキストの 18 ページを参考にしながら、カメラと被写体の^{ひ しゃたい}位置や角度を描いてみよう。



カメラと被写体の^{ひ しゃたい}位置や角度



カメラと被写体の^{ひ しゃたい}位置や角度



この写真、何を伝えたいんだろう？ - 正解 -

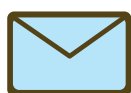


左の写真に写っているのはシロコブゾウムシ。この写真を撮った人は、シロコブゾウムシのどんなことを伝えたかったのかな？ 家族の人といっしょに考えてみよう。

写真の印象

例 1：シロコブゾウムシが、今にも葉っぱから落ちそうになっている。

例 2：シロコブゾウムシが、がんばって葉っぱをのほろろうとしている。



メールでけんか！ どうする？

セミナーのねらい

- ・「けんか・仲直りシミュレーター」でメールによるけんかのやりとりを疑似体験することを通じて、メールでは言葉づかいが悪くなったり、感情的になったりする人があることを理解し、相手のことを考えながら言葉を選んでメールでコミュニケーションする力を養う。

どんなセミナーなの？

メールでコミュニケーションしよう！



メールの仕組みや使い方を学び、メールシミュレーターでメールを体験します。その後、「けんか・仲直りシミュレーター」でメールによる行き違いとけんかを体験し、文字だけで表現することの難しさや、インターネットには直接会って話すときよりも言葉づかいが悪くなったり、強気になったり、相手が傷つくことを平気で書いたりする人があることを学びます。



何で学ぶの？

メールは私たちにとって、とても便利なコミュニケーションですが、文字だけでやりとりすることが多いため、トラブルが発生しやすいといえます。メールでは、話すときよりも言葉づかいが悪くなったり、強気になったり、感情的になったりする人もいるため、やりとりする相手によっては行き違いや勘違いが原因で、言い争いやけんかといった思わぬ方向に発展してしまうことがあります。特に子どもの場合は、メールでのけんかが原因で友だちを失ったり、いじめのきっかけになったりすることも十分考えられます。子どもが携帯電話やコンピューターのメールアドレスを持つようになると、保護者のみなさんが子どもがメールでどのようなやりとりをしているか、しっかり把握することは難しくなります。子どもたちがメールで嫌な思いをしたり、傷ついたりしないためにも、前もってメールの特性を知っておくことはとても重要です。

このセミナーでは、メールの仕組みや使い方、特性を学び、けんか・仲直りシミュレーターでの疑似体験を通じて、メールを気持ちよく使うために必要な知識や心構えを身につけます。

※「けんか・仲直りシミュレーター」は、「けんかシミュレーター」と「仲直りシミュレーター」、「解説シミュレーター」から構成されています。

メールでコミュニケーションしよう！

このセッションの学習目標

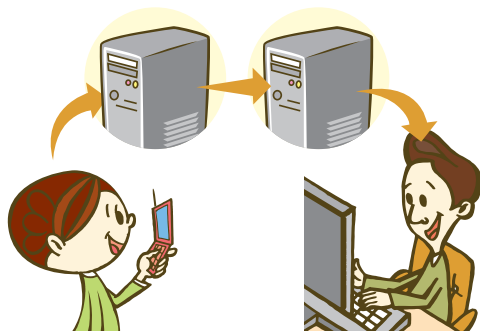
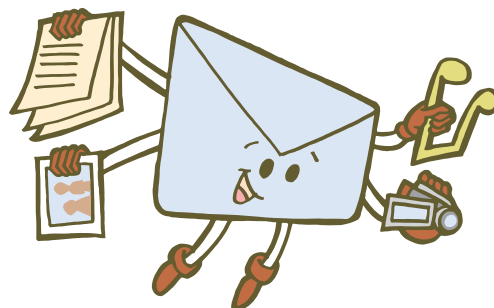
- メールの基本的な仕組みと使い方を理解して、メールを使えるようになる。
- メールでは言葉づかいが悪くなったり、感情的になったりする人がいることに気づいて、相手のことを考えながら言葉を選んでメールでコミュニケーションしよう。

メールってなに？

メールは、eメール（電子メール）の略で、携帯電話やコンピューターからインターネットなどのネットワークを介して、文字などの情報を送受信できるコミュニケーションツールです。メールは手紙と違い、文字だけでなく、画像や音声などさまざまなデータを添付して送ることができます。携帯電話から待ち受け画像やデジタルカメラで撮った写真をメールに添付して送れるのは、この機能のおかげです。他にも、同じメールを一度に複数

の相手に送れるだけでなく、CC（カーボンコピー）という本来の受信者以外の人にも同じメールを同時に送る機能や、BCC（ブラインドカーボンコピー）という本来の受信者に知られないように、同じメールを本来の受信者以外の人に同時に送る機能など、

デジタルならではの便利な機能がたくさんあります。この2つの機能は、仕事でやりとりする際に使われています。メールを開封すると、メールの送信者にその旨を自動通知する機能もありますが、これらの機能を使いこなしている人は意外と少ないようです。



メールでやりとりすることの難しさ

皆さんは、お友達やご家族の方とメールをしていて、「ひょっとして、私が言いたかったこと、伝わってないかも？」と思ったことはありませんか？メールは、相手と文字だけでコミュニケーションすることが多いため、伝えたいことをうまく伝えられなかったり、相手に誤解を与えたりしてしまうことがあります。特に、子どもの場合は大人よりも文章表現の幅が狭いため、伝えたいことをうまく表現できないことは多いかもしれません。メールの内容によっては、言い争いやけんかになってしまうことも十分考えられます。



このセミナーでお子さんは、たけし君と約束の時間に来なかったのぼる君との月の観察に関するやりとりを「けんか・仲直りシミュレーター」で疑似体験します。子どもたちは、たけし君の立場になり、のぼる君から届いたメールに対して、あらかじめ用意された文章から返信する内容を選択することで、のぼる君とメールでやりとりすることになります。けんかを疑似体験した後、シミュレーションで体験したことを振り返りながら、けんかの原因を考えることで、メールでコミュニケーションするときに気をつけなければいけないことについて学びます。



子どもにメールを使わせる前に話し合おう！

携帯電話を持った子どもが陥りがちなのがメール中毒。メール中毒は、メールが来ないと不安でしかたがなく、どんなときでもメールのことが頭から離れない状態のことを指します。子どもがこのような状況に陥ると、勉強に集中できなかったり、食事も適当に済ませたりと、日常生活のいたるところに悪影響を及ぼします。これは携帯電話に限らず、コンピューターのメールでも同様です。もしお子さんがメールを使いたいと言い出したら、まず親子でメールの使用に関するルールや危険性について話し合いましょう。具体的には、メールして良い時間帯やメールを使ってはいけない場面、次のページで取り上げているような内容について話し合うことをおすすめします。

こんなメールには気をつけよう！

メールは手紙と同じように、送りたい相手のメールアドレスが分かれば、携帯電話からでもコンピューターからでも、気軽に送ることができます。誰でも自由にメールが送れることはとても便利なことですが、その一方で望まないメールが一方的に送りつけられることがあるのも事実です。ここでは、一方的に送りつけられるメールの例について紹介します。

●チェーンメール

さまざまな人々に転送されながら増殖していくことを目的としたメールを「チェーンメール」といいます。「チェーンメール」は、いわば「不幸の手紙」や「幸福の手紙」の電子メール版のようなもので、他の人へ転送する必要はまったくありません。しかしながら、多くの子どもたちは言葉巧みな表現にだまされて、友だちや知り合いについつい転送してしまいがちです。チェーンメールは、多くの人に嫌がられている存在です。もし、お子さんのところにチェーンメールが届いたことを知ったら、メールの内容はウソが多いことや、他の人に転送せずに削除することを伝えましょう。



●迷惑メール

自分が望んでいない広告メールや勧誘メール、無意味なメールのことを「迷惑メール」（スパムメール）といいます。迷惑メールの多くは、興味のない広告や無意味な文字や記号が羅列されたものですが、中には犯罪に巻き込まれるようなものもあります。もし、お子さんのところに迷惑メールが送られてきたら、受信するメールを制限したり、迷惑メールフィルタを使ったり、メールアドレスを変更したりして、迷惑メールが届かないようにしましょう。そのようなことができない場合は、インターネットに詳しい人に相談しましょう。



●架空請求メール

不特定多数に送られる偽の請求メールのことを「架空請求メール」といいます。架空請求メールは、悪意のある人や組織が、さまざまな人からお金をだまし取るために送ったものです。このようなメールは、いかがわしいウェブサイト会員登録の際に入力したメールアドレスに対して送られるケースがほとんどですが、そのような行動をとっていない大人や子どもにも架空請求メールが届くことがあります。架空請求メールの内容は法的には無効であり、そのような内容を送ることは違法行為にあたります。もし、このようなメールがお子さんのところに届いたら、内容を確認して問題なければ削除しましょう。もし、削除しても大丈夫かどうか不安な場合は、警察や消費生活センターに相談しましょう。





ケータイを持って街へ出かけよう！

セミナーのねらい

- ・携帯電話におけるさまざまな利用シーンを「お使いシミュレーター」で疑似体験することを通じて、携帯電話の仕組みや機能、ルールやマナーを理解し、活用する力を養う。

どんなセミナーなの？

ケータイを体験してみよう！



携帯電話の仕組みや機能を学び、「お使いシミュレーター」で携帯電話の利用を疑似体験します。疑似体験の過程で、携帯電話は日常生活のさまざまな場面で役立つことや、携帯電話を使うにあたってはルールやマナーを守らなければいけないことを学びます。



何で学ぶの？

みなさんは携帯電話が登場したのがいつ頃か、覚えていますか？

携帯電話が世の中に登場したのは、1993年頃だといわれています。そして登場以来、「持ち歩ける電話機」として、爆発的に普及しました。最近の携帯電話は、通話だけでなく、メールやネットサーフィン、カメラやGPSなど、便利な機能がたくさんついています。高機能になった「ケータイ」は、私たちの生活になくてはならない存在になりつつあります。

携帯電話を持つ人の年齢層は年々幅広くなっていますが、子どもをターゲットとした凶悪事件が相次いで発生したことを機に、2005年頃から小学生に防犯目的で携帯電話を持たせるご家庭が増え始めました。今後も、基本料金の低価格化や通信料の定額化が進むことで、小学生以下のお子さんに携帯電話を持たせるご家庭は増えると考えられています。

携帯電話はとても便利なツールですが、利用にあたってはさまざまなルールやマナーを守らなければなりません。それだけでなく、見知らぬ人からの着信やメールへの対処、携帯電話を管理することの重要性についても知る必要があります。

このセミナーで、子どもたちは携帯電話の利用を「お使いシミュレーター」で疑似体験することを通じて、携帯電話の機能や使い方、利用にあたってのルールやマナーを学び、携帯電話を正しく活用するための知識や心構えを身につけます。

※このセミナーは、小学生のお子さんにケータイを持たせることをお勧めするものではなく、お子さんが携帯電話を持ったときに安全に利用できるようにするための事前知識の習得を目指しています。

ケータイを体験してみよう！

このセッションの学習目標

- 携帯電話の基本的な機能について理解しよう。
- 携帯電話の利用に関するルールやマナーを理解しよう。

ケータイに備わっているさまざまな機能

発売当初の携帯電話（ケータイ）は、家の固定電話よりも大きく、通話機能しかありませんでした。現在は手のひらに収まるくらい大きさになっただけでなく、通話以外のさまざまな機能が盛り込まれています。

ケータイは、音声やデータを全国各地にある基地局と電波でやりとりすることで、遠く離れたところにいる相手と通話やメールによるコミュニケーションを可能にしています。通話やメール以外にも、データ通信機能を利用してネットサーフィンやテレビ電話などを楽しむこともできます。

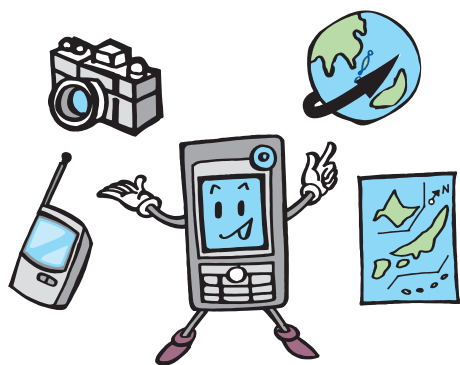


2007年4月から、ケータイにGPS機能を搭載することが法律で義務づけられます。GPSは、カーナビなどで利用されている全地球測位システムのことで、自分の居場所を調べたり、地図サービスと連携して現在地から目的地までのルートを調べることができます。特に、子ども向けケータイの場合は、保護者のみなさんが子どもの居場所をウェブサイトで確認できるようになります。その他にも、ワンセグという地上デジタル放送を受信する機能や音楽データの再生機能、防犯ブザー機能など、私たちの生活をより豊かにする機能がたくさん組み込まれています。

大人にとっても子どもにとっても魅力的な機能が満載のケータイですが、このセッションで注目する機能はカメラと無線ICチップです。カメラ機能を使えば、写真や動画を撮ることができます。撮影した写真や動画のデータはケータイに保存され、必要に応じて他の人にメールで送ったり、ブログや

掲示板などにアップロードして公開することができます。雑誌やポスターについているQRコードという二次元バーコードをカメラで撮影すると、撮影した情報を使ってウェブサイトアクセスしたり、割引クーポンや予約チケットとして利用することもできます。

無線ICチップが搭載されているケータイは、電車やバスの乗車券として利用したり、商品やサービスの代金を支払う際の「電子マネー」として利用することができます。



ケータイのマナー

小学校高学年になると、お使いや習い事、買い物などで行動範囲が広がり、バスや電車に乗って出かける機会が次第に増えていきます。電車やバスなどの交通機関、病院や図書館などの公共機関では、マナーモードにしたり、電源を切っておくのがマナーであることはみなさんもお存じですよね？

特に交通機関では優先席付近、飛行機の機内、公共施設では病院内のケータイ使用は禁止されています。これは精密機器がケータイの電波に影響されて事故を引き起こしてしまうことがあるためです。

そのほかにも、図書館や映画館など、みんなが集まる公共の場所では、ほかの人に迷惑をかけないこと、気配りをする必要があります。

お子さんには、ただ禁止して命令するのではなく、「なぜ切らなくてはいけないのか」を伝えましょう。理由がわかれば、お子さんはどこで切るべきかを学ぶことができ、自然にマナーが身についていきます。また、マナーモードの設定や電源を切ることをすっかり忘れてしまうこともありますので、その点についてもしっかり教えましょう。



デジタル万引きに注意！

ある男の子が学校帰りに、ちょっと本屋さんへ寄り道しました。雑誌を見ていて面白いページをみつけたから、ケータイのカメラでカシャッと撮影…。

これが今、社会問題になっている「デジタル万引き」です。子どもは盗むつもりで写真を撮ったのではなく、友だちにも見せてあげようという無邪気な気持ちから行っただけかもしれません。実際に、ほとんどのデジタル万引きは、悪いという意識がなく行われています。しかし、ページを

写真に撮るということは、そのページを切り取って持ち帰るのと同じことなのです。場合によっては店の人に叱られるだけでは済まされず、万引きとして通報されることもあるのです。

お子さんには、売り物を勝手にカメラで撮ると、盗んだことになってしまうと教えましょう。

また、書物や絵画、イラスト、音楽などの作品には、著作権があります。たとえ購入したもので、写真に撮ったり録音したりしてインターネットで自分のブログや掲示板などに載せると、「著作権の侵害」になって法律で罰せられてしまいます。人物写真も肖像権の侵害になるので、お子さんにはケータイのカメラで撮っても、気軽にメールで送ったり、ネットに載せたりしないようにすることを伝えましょう。



ケータイトラブルから子どもたちを守ろう！

ケータイは使い方を1つ間違えると、お子さんをとても危険な目に遭わせてしまうことになります。お子さんにケータイを持たせる場合は、次のことについてしっかり教えるようにしましょう。

●コンテンツ利用と使いすぎに注意しよう！

待ち受け画面や着信メロディ、ゲーム、占いなど、最初の一つだけは無料であとは有料というものがあります。有料といっても一ヶ月100円などの低額のため、「契約」とは気づかずにあちこち登録してそのままになっているケースも多いようです。契約を解除するまで毎月料金がかかり続けるので、保護者の皆さんは明細などを必ずチェックして利用の実態を把握するようにしましょう。



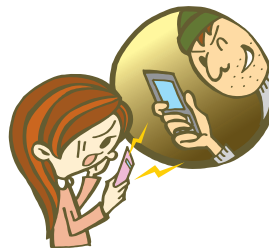
●ケータイはなくさないようにしっかり管理しよう！

ケータイには、所有者情報やアドレス帳に他の人の名前や電話番号といった個人情報がたくさん記録されています。そんなケータイが悪用されたら一大事です。ケータイに登録されている人に迷惑がかかるだけでなく、ケータイ所有者自身も不正利用などのさまざまな被害を受けるかもしれません。お子さんにはケータイは家の鍵やお財布と同じ貴重品であり、なくしたり、他の人に勝手に使われないようにしっかり管理しなければいけないことをしっかり教えましょう。



●知らない人からの電話やメールは無視しよう！

ケータイには、見知らぬ人から電話がかかってきたり、メールが送られてきたりすることがあります。このような電話やメールの中には詐欺まがいの電話勧誘や迷惑メールなど、人々に恐怖や不快感を与えるものもあります。お子さんに持たせるケータイには番号指定着信やドメイン指定受信の設定を行い、子どもが安全にケータイを利用できるようにしてあげましょう。また、万が一に備えて、知らない人から電話やメールがあったら、無視したり、親に相談するように伝えましょう。



家族で話し合いましょう！

ケータイはメールやゲーム、カメラといった子どもたちにとって魅力的な機能がたくさんついているため、使用せ方によってはお子さんの成長に悪影響を及ぼすことも考えられます。もし、お子さんにケータイを持たせる場合は、お子さんのためにも次のようなルールやマナーについて家族みんなで話し合いましょう！

◆話し合う内容の例

- ・ケータイを使ってよい時間帯
- ・ケータイを使っていい場所、いけない場所
- ・見知らぬ人から電話がかかってきたり、メールが送られてきたときの対処方法
- ・1ヶ月に使ってよい通信費の上限
- ・家族との連らくのとりかた
- ・ケータイを落としたときの対処方法

など

教材制作協力者一覧

検討・評価委員会（敬称略）

委員長

清水康敬 独立行政法人メディア教育開発センター 理事長

副委員長

山西潤一 富山大学 人間発達科学部長

委員（五十音順）

石戸奈々子 NPO 法人 CANVAS 副理事長
猪田順一 千葉県浦安市教育委員会指導課教育研究センター 指導主事
榎本竜二 東京都立江東商業高等学校 教諭
西田光昭 千葉県柏市立土南部小学校 教諭
平野秋一郎 独立行政法人メディア教育開発センター 特定特任教授
吉田浩 茨城県つくば市教育委員会指導課 指導主事

調査・研究チーム（敬称略）

リーダー

中川一史 金沢大学教育学部附属教育実践総合センター 助教授

メンバー（五十音順）

有田浩子 鳥取県鳥取市立西郷小学校 教諭
河岸美穂 石川県立金沢伏見高等学校 教諭
小林祐紀 石川県金沢市立三谷小学校 講師
佐藤幸江 神奈川県横浜市立大口台小学校 主幹教諭
佐和伸明 千葉県柏市立旭東小学校 教諭
谷口義昌 鳥取県鳥取市立醇風小学校 教諭
松能誠仁 金沢大学 技術職員
村井万寿夫 金沢星稜大学 助教授

※協力者の所属および役職は、平成 19 年 3 月現在のものです。

総務省ICTメディアリテラシー教材

伸ばそう ICT メディアリテラシー
ーつながる！わかる！伝える！これがネットだー

調査・開発

株式会社内田洋行 教育総合研究所

〒104-8282 東京都中央区新川 2-4-7

